若手医師リレーエッセイ
Spirits
スピリッツ

コロナ禍における若手消化器内科医の日常

旭川医科大学　消化器・血液腫瘍制御内科学分野（第三内科）
梶浦　麻未

滝川市出身。旭川医大を卒業後、地元近くの病院で初期研修を行ったのち、3年目からは旭川に戻る。趣味は中学校から大学まで続けた吹奏楽をはじめ音楽全般と旅行。写真は今年初めごろに友人と行ったイタリア旅行にて撮影。帰国後からイタリアでも新型コロナウイルスの感染者が出現し、旅先で出会った人々の無事と健康を祈るばかりです。

北海道医報をお読みの皆さん、初めまして。旭川医科大学　消化器・血液腫瘍制御内科学分野（第三内科）の梶浦麻未です。大学時代からお世話になっている先輩の林翔平先生からリレーのバトンを渡されましたので、簡単ではありますが私の日々の出来事や思うことを書き連ねていこうと思います。

新型コロナウイルスの影響がいまだ全国で残っておりますが、旭川は感染者も一時期よりはだいぶ落ち着き、治療を延期していた方の治療・入院が増えてきております。現在私は消化器内科の専攻医として大学病院で各グループ（消化管・胆膵・肝臓）をローテーションする形での研修を実施しています。この４ヵ月は肝臓グループを回っており、肝臓がんに対してのエコーを利用しての治療（PEIT、RFAなど）、肝生検、肝硬変の治療管理、食道静脈瘤に対しての内視鏡的治療などをメインに携わっておりました。消化器内科としての研修を始めて早２年目となり、まだまだ未熟な部分も多いですが日々充実した研修を送ることができております。また週に一回は市内の他病院に出張し一般外来も行っています。普段は大学では消化器疾患の治療を主に実施しておりますが一般外来においては高血圧症や糖尿病など生活習慣病の外来治療にもあたっています。私は将来的には出身地である空知の地域医療に従事したいと考えていますので、自分の専門を多くの指導医のいる大学病院で学びつつ、一般の内科外来の知識経験も得ることのできるいまの状況をぜひ今後の糧としていきたいと考えています。まだ慣れないことも多く周りの上級医の皆様のご指導の下ではございますが、自分の専門分野を生かしつつ内科疾患を幅広く診られる医師になれるよう今後も頑張っていく所存です。

大学は施設の都合上、自分の専門科をしっかり診ることが求められ、自分の専門外のことについては治療などを含めてできる限り各専門科に診ていただくことが多いです。先日肝硬変の治療を行っている方のモニター上に頻脈の出現がありましたが、ここ最近は不整脈の波形を見る機会も減ってきていて、恥ずかしながらVTの連発のようにも心房細動のようにもみえて自分で診断がつきませんでした。結果として循環器内科の先生に診ていただき、血管内脱水に伴う心房細動の診断となったのですが、心電図波形をしっかりと読むことができていないことに気づき、大学時代からの友人と心電図の勉強会を週１回程度実施しています。新型コロナウイルスの流行や日々の仕事の関係上集まって勉強するのも難しいということでZoomなどのオンラインデバイスも使いながら現在まで継続しています。これがなかなか良い試みで遠方に出張に行っているときも友人とオンラインで学習を続けていけています。今年度は学会やレクチャーなどもWeb開催への変更が多くなってきています。今までとの変化はありますが、場所や移動などの時間を選ばず学習の機会が与えられるというメリットもあり、今後の「Withコロナ」の時代においてはオンラインでの学習の機会がさらに増えてくるのではないかと考える今日この頃であります。今後も生涯学習を継続していきたいと思います。

さて、次のバトンは初期研修時代の同期の植村和平先生にお願いしたいと思います。超音波を利用しての診療を主体とし、現在もActiveに学ばれている、同期ながらとても尊敬している先生です。よろしくお願いいたします。皆さん、最後までお読みいただきありがとうございました。